
Express5800 シリーズ

RAID/SAS オプションデバイス
(N8803-054(L)/055(L)/056(L))

ファームウェア更新ガイド
(ver 6.52)

[GVO-089394-G01]
(第 1 版)

2025 年 3 月 第 1 版
© NEC Corporation 2025

目次

目次	2
1. 本書について	4
1.1. 本文中の記号について	4
1.2. 注意事項	4
2. 準備	5
2.1. 事前確認	5
3. 接続	7
4. 装置コンソール接続方法	8
4.1. iLO WEB インターフェース接続方法	8
4.2. リモートコンソール接続方法	11
5. ファームウェアバージョン確認方法	13
5.1. iLO WEB インターフェースでの確認方法	13
6. ファームウェア更新手順	14
6.1. ファームウェア更新手順詳細	15
7. 付録	22
7.1. リモートコンソール	22
7.1.1. .NET リモートコンソール (.NET IRC) の使い方	22
7.1.1.1. コンソールの起動	22
7.1.1.2. 本体装置の電源制御方法	22
7.1.2. HTML5 統合リモートコンソールの使い方	24
7.1.2.1. コンソールの起動	24
7.1.2.2. 本体装置の電源制御方法	24
7.2. MCTP 設定変更方法	26
7.3. トラブルシューティング	30
7.3.1. ファームウェア更新が失敗する	30

ご注意

1. 本書の内容の一部または全部について、許可なく複製・転載・翻訳・他形式・メディアへの変換を行うことは、禁止されております。
2. 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一お気付きの点や、ご不明の点がありましたら、販売店または弊社までご連絡ください。
4. 本書記載操作を行った結果の影響については、上記 3 項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、ご了承ください。
5. 本書は、本体装置の操作に熟知した管理者、または保守員向けに記載されております。本体装置の取り扱いや、各種 OS の操作、その他一般的かつ、基本的な事柄につきましては記載を省いておりますのであらかじめご了承ください。

© NEC Corporation 2025

日本電気株式会社の許可無く、本書の複製・改変などを行うことはできません。




1. 本書について

本書は、下記対象製品 (本体装置) 向けの RAID/SAS オプションデバイスファームウェアをオフラインで更新するための
の手引きです。


対象製品 (本体装置)	Express5800/R32Ba-E2、 R32Ba-E2 (2nd-Gen)
対象 RAID/SAS オプションデバイス	[N8803-054] SAS コントローラ [N8803-054L] SAS コントローラ 長期保守対応モデル [N8803-055] RAID コントローラ(SR, 2GB, Bi-mode, 8 レーン, OCP) [N8803-055L] RAID コントローラ(SR, 2GB, Bi-mode, 8 レーン, OCP) 長期保守対応モデル [N8803-056] RAID コントローラ(SR, 2GB, Bi-mode, 8 レーン, PCI) [N8803-056L] RAID コントローラ(SR, 2GB, Bi-mode, 8 レーン, PCI) 長期保守対応モデル
更新バージョン	ver 6.52
更新作業時間	大凡 30 分 1 本体装置あたり

1.1. 本文中の記号について

本書では、下記 3 種類の記号を使用しています。
これらの記号と意味をご理解になり製品を正しくお取り扱いください。

 重要	製品の取り扱いや、OS、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や、特に注意すべき点 を示します。
 チェック	製品や OS、ソフトウェアを操作する上で、確認しておく必要がある点を示します。
 ヒント	知っておくと役立つ情報や便利な事柄を示します。


1.2. 注意事項



 ヒント	本書に記載する画面イメージは一例であり、対象製品、対象製品の構成及び対象製品の操作環境等に 依り若干異なる場合がありますが、操作する上で支障のない差異ですので、予めご承知おきください。
--	---

2. 準備

本作業では、本体装置以外に下記物品が必要となりますので、予めご準備ください。

Table 2-1 必要となる物品

物品	数量	備考
端末パソコン	1	本体装置に接続し、本体装置を操作するために使用します。 <div>  ご使用になるファームウェア更新モジュール(zip ファイル)を、予め端末パソコンのローカルディスクに収録し、圧縮解凍しておいてください。 </div>
ディスプレイ	1	本体装置に接続し、本体装置の画面として使用します。
LAN ケーブル	1	本体装置と端末パソコンを接続するために使用します。

	既に、本体装置のマネージメント専用 LAN コネクタ(iLO)を介した iLO Web インターフェースへの接続環境を構築されており、且つ下記物品或いは情報をご存じである場合、前記< Table 2-1 必要となる物品 > は不要です。
	<ul style="list-style-type: none"> - iLO Web インターフェースにアクセスする端末 - iLO Web インターフェースの User Name と Password - iLO Web インターフェースの IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレス <div>  ご使用になるファームウェア更新モジュール(zip ファイル)を、予め iLO Web インターフェースアクセス端末のローカルディスクに収録し、圧縮解凍しておいてください。 </div>

2.1. 事前確認

[事前確認 01]

本書記載ファームウェア更新手順は、Trusted Platform Module(TPM)に対応しておりません。

TPM は標準搭載されていますので、下記操作を行って、一旦、「TPM Visibility」を[Hidden]に変更します。また、FW 更新作業後、「TPM Visibility」と「Platform Certificate Support」を元の設定値に戻してください。

[TPM Visibility 設定変更方法]

01. 対象本体装置の電源を ON し、POST 起動中(Function Key 案内表示後)に<F9>キーを押下し、System Utilities を起動します。
02. System Utilities において、{System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Advanced Security Options}へと進み、「Platform Certificate Support」の現設定値を控えた上で、[Disabled]に変更します。
03. <Esc>キーを数回押下し、Server Security 画面まで戻り、{Trusted Platform Module Options → Advanced Trusted Platform Module Options}へと進み、「TPM Visibility」の現設定値を控えた上で、[Hidden]に変更します。
04. <F10>(Save)キーを押下します。
05. <Esc>キーを数回押下し、System Utilities トップ画面まで戻り、『Reboot the System』を選択し、対象本体装置を再起動します。

[事前確認 02]

System Utilities 及び **iLO Web** インターフェースでの **MCTP** 設定が「無効」になっていると、ファームウェア更新が失敗する場合があります。

そこで、ファームウェア更新を行う前に、下記＜**MCTP** 設定に係る事前作業＞を行ってください。

そして、ファームウェア更新完了後、必要に応じて、**MCTP** 設定を元に戻してください。

＜**MCTP** 設定に係る事前作業＞

- | | |
|----|---|
| 1) | System Utilities 及び iLO Web インターフェースにおける現 MCTP 設定値を控える (記録する)。 |
| 2) | System Utilities 及び iLO Web インターフェースにおける全てのスロットの MCTP 設定を、一旦「有効」に設定する。 |

MCTP 設定変更方法については、＜**7.2MCTP** 設定変更方法＞を参照してください。



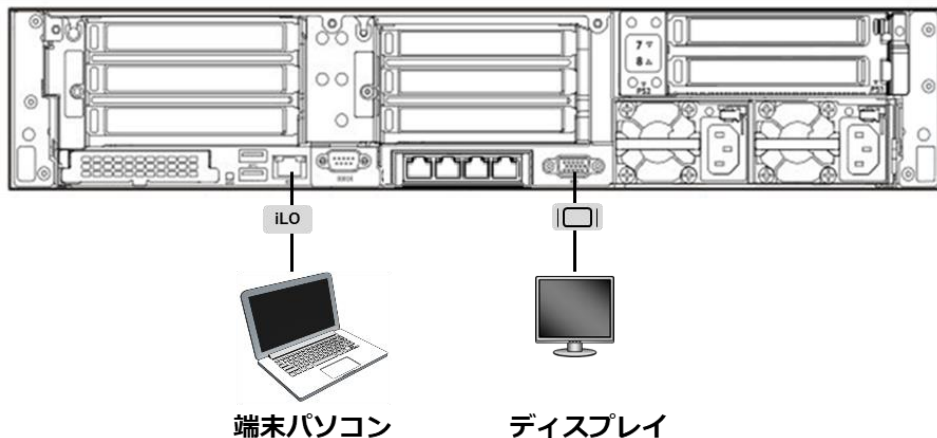
MCTP 設定は、**System Utilities** 及び **iLO Web** インターフェースのどちらとも、デフォルト「有効」です。

3. 接続

ご準備頂いた物品を下図のとおり本体装置に接続します。

Figure 3-1 接続図 (R32Ba-E2、R32Ba-E2 (2nd-Gen)モデル)

本体装置 (背面)



端末パソコンと本体装置は、LAN ケーブルで直結させてください。



既に、本体装置のマネージメント専用 LAN コネクタ(iLO)を介した iLO Web インターフェースへの接続環境を構築されている場合、そのままの接続環境で構いません。

4. 装置コンソール接続方法

本書記載のファームウェア更新手順では、本体装置に接続した端末パソコンから本体装置の iLO Web インターフェース及び本体装置のリモートコンソールに接続して更新作業を行います。

ここでは、iLO Web インターフェース接続方法、及びリモートコンソール接続方法を記載します。

4.1. iLO Web インターフェース接続方法

[step.a-01] iLO Web インターフェースへの接続情報の確認

A. iLO Web インターフェースの User Name と Password の確認

本体装置前面のスライドタグにある iLO ライセンスシール中に記載されている「User Name」と「Password」を控えます。



既に、iLO Web インターフェースの User Name と Password をご存じである場合、本作業は不要です。

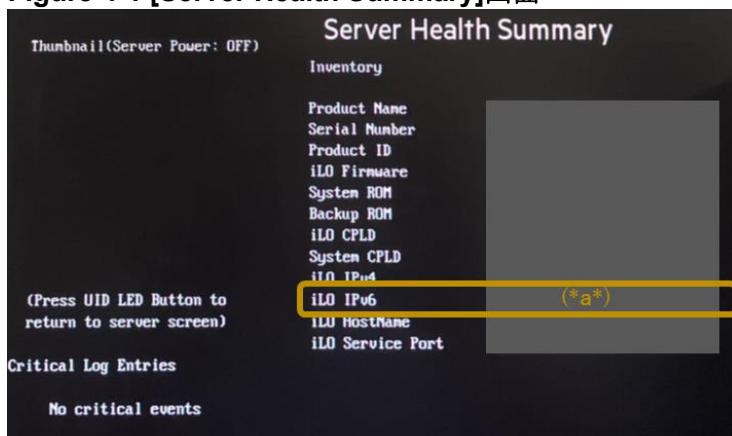


以降の作業で、この User Name と Password が必要になります。




B. iLO Web インターフェースの IP アドレス(IPv6)の確認

- ① 本体装置の電源コードをコンセントに取り付けます。
- ② **Server Health Summary** 画面をディスプレイに表示させます。
具体的には、前記①の後、本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯していることを確認した上で、**UID** スイッチを押します。
そうすると、ディスプレイに下図画面が表示されますので、下図(*a*)箇所の「iLO IPv6」のアドレスを控えます。

Figure 4-1 [Server Health Summary]画面



既に、iLO Web インターフェースの IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレスをご存じである場合、本作業は不要です。

	<p>IPv6 の仕様として、セクションが"0"で始まる場合、"0"を省略して表示しても良いことになっています。</p> <p>そのため、表示される IPv6 アドレスの各セクションが 4 桁ではない場合があります。その際は、各セクションが 4 桁となるように、セクションの先頭に"0"を付加して控えてください。</p> <p>(例) 表示値: fe80::9618:82ff:fe71:2b4 控え値: fe80::9618:82ff:fe71:02b4</p>
	<p>前記①の後、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯していた場合、本体装置の電源が ON されています。</p> <p>その場合は、POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置の電源を OFF します (スタンバイ状態にします)。</p> <p>本体装置の電源が OFF されると、POWER ランプがアンバー色に点灯します。</p>
	<p>以降の作業で、この IPv6 アドレスが必要になります。</p>

[step.a-02] iLO Web インターフェースへの接続とログイン

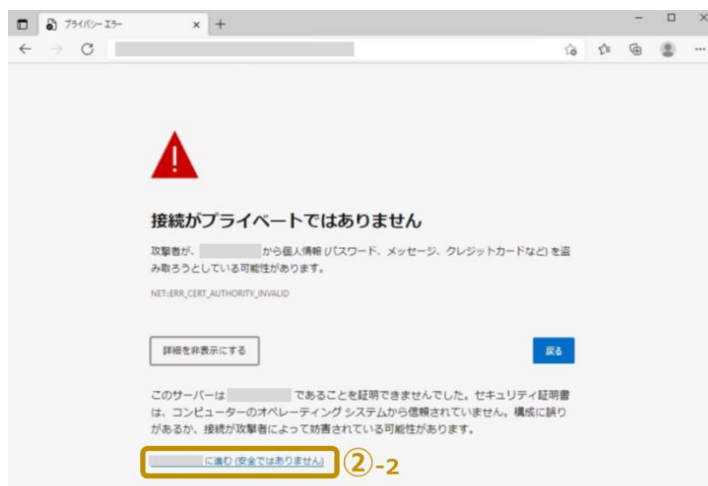
A. iLO Web インターフェースへの接続

- ① 端末パソコンにて、Web ブラウザ(Microsoft Edge 等) を起動し、前記作業で控えておいた iLO Web インターフェースの IP アドレスをアドレスバー (①) に入力します。

例) [https://\[abcd::efgh:ijklmnop:qrst\]/](https://[abcd::efgh:ijklmnop:qrst]/)

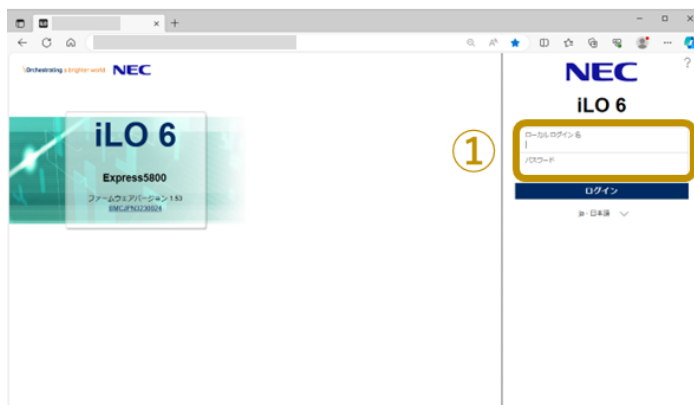


- ② セキュリティ警告が表示された場合は、上記画面の「詳細情報」(②-1)をクリックします。そうすると、下図画面表示になりますので、「xxxx に進む (安全ではありません)」(②-2)をクリックしてください。

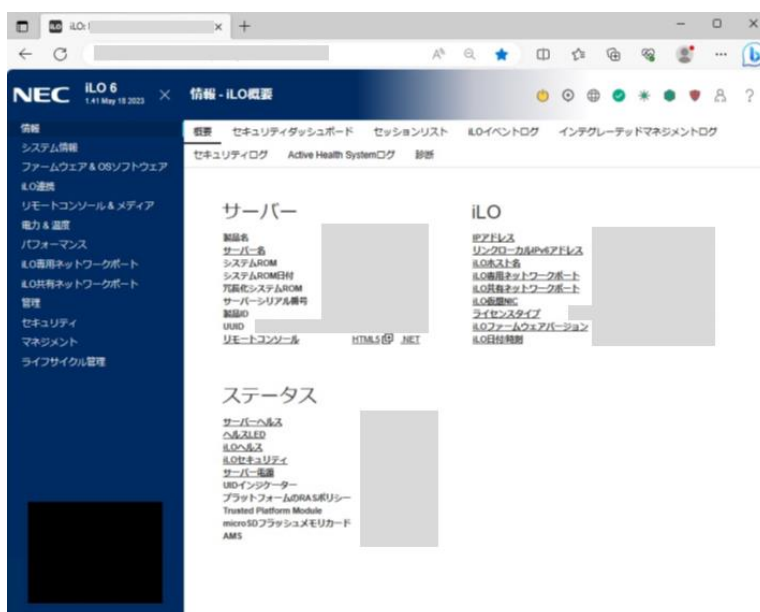


B. iLO Web インターフェースへのログイン

iLO Web インターフェースに接続できると下図画面が表示されますので、前記作業で控えておいた iLO Web インターフェースの **User Name** と **Password** を①箇所に入力し、「ログイン」ボタンを押します。



ログインに成功すると、下図画面に切り替わります。



4.2. リモートコンソール接続方法

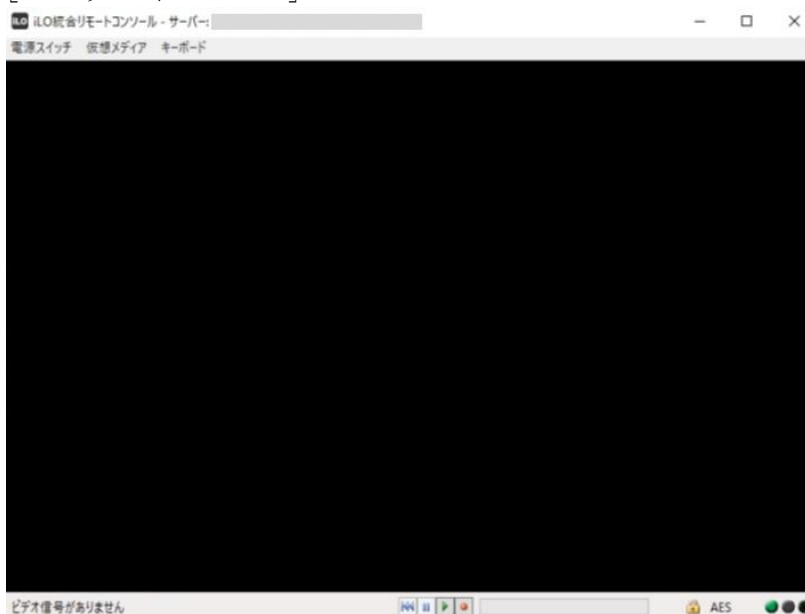
[step.b-01] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「.NET コンソール」ボタン(③)をクリックします。



.NET リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

[.NET リモートコンソール]



「.NET リモートコンソール」が起動しない場合、下記何れかの対処を行ってください。

[対処 A]

「iLO6 ユーザーズガイド」を参照して、.NET リモートコンソール(.NET IRC)に係る要件、トラブルシューティング等を確認し、端末パソコン及び端末パソコン上で起動している web ブラウザを適切に設定する。

[対処 B]

Microsoft Edge にて iLO Web インターフェースに接続している場合、Microsoft Edge を下記の通り設定し、Microsoft Edge を再起動させた後、再度 iLO Web インターフェースに接続する。

1. ブラウザで以下に移動する。
edge://settings/content/insecureContent
2. [許可]において、[追加]をクリックする。[サイトの追加]ダイアログが開きます。
3. [サイトの追加]ダイアログに、iLO Web インターフェースの IP アドレスを入力し、[追加]をクリックする。
(IPv6 アドレス入力例) [aaaa::bbbb:cccc:dddd:eeee]

[対処 C]

Microsoft Edge(IE モード)にて、iLO Web インターフェースに接続する。

[対処 D]

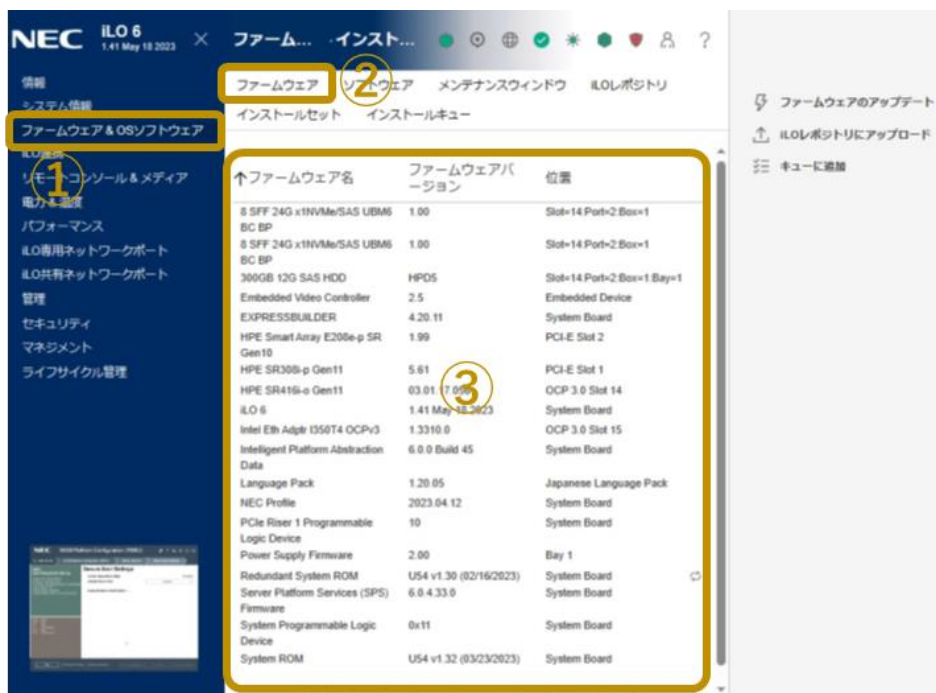
「HTML5 統合リモートコンソール」を起動させてください。
これらリモートコンソールの起動方法は、＜7.1 リモートコンソール＞を参照ください。

5. ファームウェアバージョン確認方法

対象 RAID/SAS オプションデバイスのファームウェアバージョン確認方法を記載します。

5.1. iLO Web インターフェースでの確認方法

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「ファームウェア & OS ソフトウェア」(①)をクリックし、「ファームウェア」タブ(②)をクリックします。そして、下図③箇所にて、対象 RAID/SAS オプションデバイスのファームウェアバージョンを確認します。



対象 RAID/SAS オプションデバイスのファームウェア名は、下表の通りです。

ファームウェア名 (*a)	対応デバイス	備考
HPE Smart Array E208e-p SR Gen10	[N8803-054/054L] SAS	(*01)
HPE SR308i-o Gen11	[N8803-055/055L] RAID (Bi-mode)	(*01)
HPE SR308i-p Gen11	[N8803-056/056L] RAID (Bi-mode)	(*01)
(*a) 上図③箇所の「ファームウェア名」欄に表示される文字列の一部です。		
(*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。		

6. ファームウェア更新手順

本体装置にインストールされているファームウェアの更新方法を記載します。




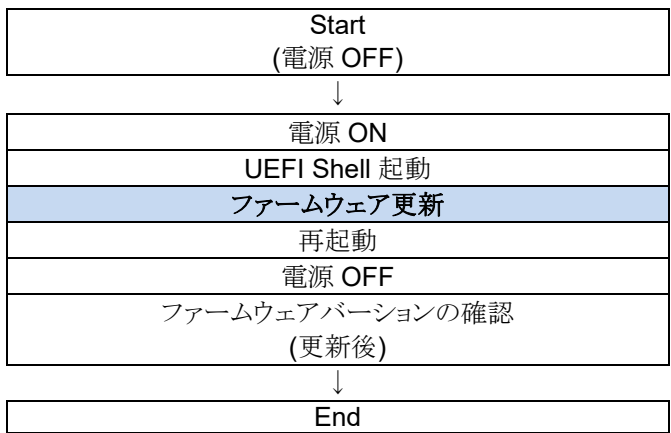
	<p>本作業を行う前に、本体装置の電源が OFF になっていることを確認してください。 具体的には、本体装置正面の POWER ランプがアンバー色に点灯していることを確認してください。</p> <p>もし、本体装置の電源が ON されているならば、本体装置の電源を OFF してください。</p>
	<p>本体装置の電源状態は、装置前面の POWER ランプで確認できます。 電源 OFF 状態ですと、POWER ランプがアンバー色に点灯します。 電源 ON 状態ですと、POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。</p>
	<p>POWER ランプが消灯している場合、電源コードがコンセント或いは本体装置から外れている可能性がありますので、ご確認ください。</p>

Figure 6-1 ファームウェア更新手順フロー



[＜6.1 ファームウェア更新手順詳細＞](#)

6.1. ファームウェア更新手順詳細

対象 RAID/SAS オプションデバイスにインストールされているファームウェアの更新方法を記載します。

[step.1-01] iLO Web インターフェースへの接続とログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記＜4.1 iLO Web インターフェース接続方法＞を参照してください。

[step.1-02] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースからリモートコンソールを起動します。

具体的な手順は、前記＜4.2 リモートコンソール接続方法＞を参照してください。

[step.1-03] 本体装置 電源 ON

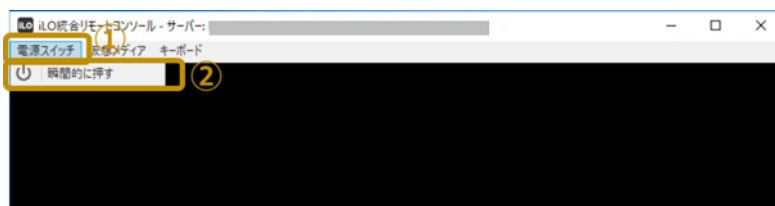
本体装置の電源を ON します。

具体的には、下記何れかの操作を行います。

- 本体装置前面の POWER ボタンを押す。
- iLO Web インターフェースの[電力&温度] → [サーバー電源] → [瞬間的に押す]をクリックする。



- リモートコンソールの[電源スイッチ] → [瞬間的に押す]をクリックする。



リモートコンソールでのその他電源操作については、＜7.1 リモートコンソール＞に記載しております。

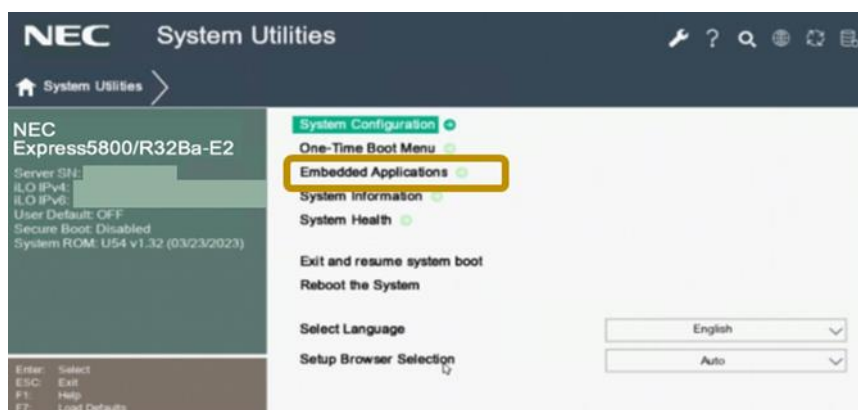
[step.1-04] System Utilities の起動

本体装置電源 ON 後、リモートコンソールが下図画面表示になったならば、<F9>キーを押して System Utilities を起動します。

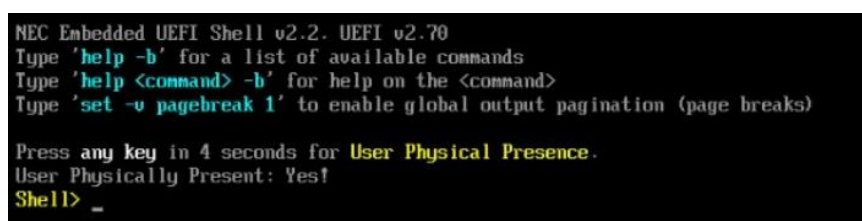


[step.1-05] UEFI Shell の起動

リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、「Embedded Applications」→「Embedded UEFI Shell」を選択します。



そうすると、UEFI Shell が起動し、リモートコンソールが下図画面に切り替わります。



[step.1-06] ファームウェア更新

A. ファームウェア更新ページの表示

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「ファームウェア & OS ソフトウェア」(①)をクリック

し、画面右側の「ファームウェアのアップデート」(②)をクリックします。

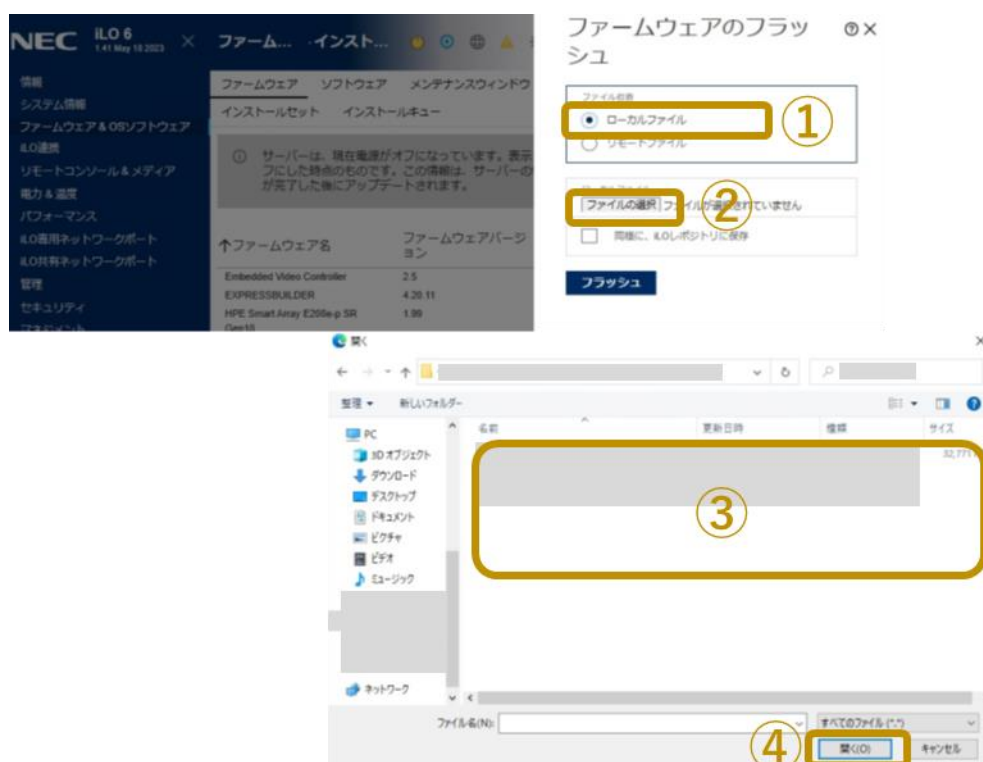


B. ファームウェア更新ファイルの選択

iLO Web インターフェースの「ファームウェアのフラッシュ」フレームにおいて、「ファイル位置」アイテムの「ローカルファイル」(①)を選択し、「ローカルファイル」アイテムの「ファイルの選択」ボタン(②)をクリックします。

そして、ポップアップ表示された「開く」ダイアログにて、予め端末パソコン内に収録及び圧縮解凍したファームウェア更新モジュール内の
”GVO-089394-G01¥packages” フォルダー配下に在る下記ファイルを選択し(③)、「開く(O)」ボタン(④)をクリックします。

ファームウェア更新ファイル	備考
HPE_SR_Gen10_6.52_A.fwpkg	



C. ファームウェア更新(フラッシュ)

iLO Web インターフェースの「ファームウェアのフラッシュ」フレームにおいて、「ローカルファイル」アイテム(①)に選択したファイルが表示されていることを確認した上で、「フラッシュ」ボタン(②)をクリックします。

もし警告メッセージが表示されたならば、「OK」ボタン(③)をクリックします。



ヒント

もし下記注意メッセージが表示されたならば、「TPM の無効」(a)にチェックを入れた上で、「フラッシュ」ボタン(b)をクリックしてください。

注意: データを失うリスクがあるため、インストールされたTPMまたはTMを使用しているソフトウェアをサスペンドするか、バックアップしてください。続行するには、[TPMの無効]チェックボックスを選択します。

☒ TPMの無効

a

フラッシュ

b

ヒント

ファームウェア更新が開始されると、その旨が下図 A 箇所に表示されます。

The screenshot shows the NEC iLO 6 interface. A progress bar at the top indicates the 'ファームウェアアップデート' (Firmware Update) progress. The progress bar is at 33% and is labeled 'A'. Below the progress bar, there is a table showing the firmware update details.

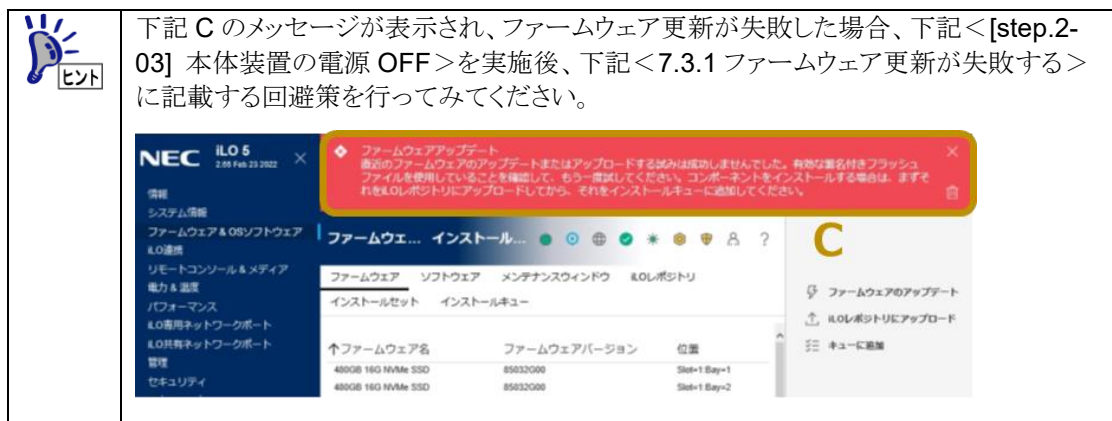
ファームウェア名	ファームウェアバージョン	位置
Embedded Video Controller	2.5	Embedded Device
EXPRESSBUILDER	4.26.11	System Board

ヒント

ファームウェアの更新時間は、大凡 5 分くらいです。

ヒント

単一本体装置に [N8803-054/054L/055/055L/056/056L] が複数枚搭載されている場合、それら全てのデバイスのファームウェアが同時更新されます。
例えば、[N8803-055]が 1 枚及び[N8803-056]が 2 枚搭載されている場合、これら 3 枚のファームウェアが同時更新されます。



[step.1-07] 本体装置の再起動

リモートコンソールの UEFI Shell において、下記コマンドを入力して、本体装置を再起動します。

Shell> reset

```
NEC Embedded UEFI Shell v2.2. UEFI v2.70
Type 'help -b' for a list of available commands
Type 'help <command> -b' for help on the <command>
Type 'set -v pagebreak 1' to enable global output pagination (page breaks)

Press any key in 5 seconds for User Physical Presence.
User Physically Present: Yes!
Shell>
Shell>
Shell> reset_
```

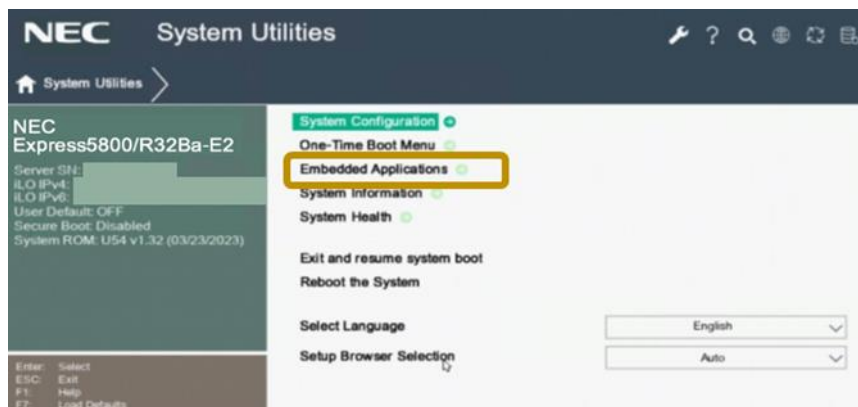
[step.2-01] System Utilities の起動

再起動後、リモートコンソールが下図画面表示になったならば、<F9>キーを押して System Utilities を起動します。



[step.2-02] UEFI Shell の起動

リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、「Embedded Applications」→「Embedded UEFI Shell」を選択します。



[step.2-03] 本体装置の電源 OFF

リモートコンソールにて UEFI Shell が起動したら、下記コマンドを入力して、本体装置を電源 OFF します。

```
Shell> reset -s
```

```
NEC Embedded UEFI Shell v2.2. UEFI v2.70
Type 'help -b' for a list of available commands
Type 'help <command> -b' for help on the <command>
Type 'set -v pagebreak 1' to enable global output pagination (page breaks)

Press any key in 0 seconds for User Physical Presence.
User Physically Present: No!
Shell>
Shell>
Shell> reset -s_
```

[step.2-04] 更新後ファームウェアバージョンの確認

本体装置に搭載されている対象 RAID/SAS オプションデバイス全てのファームウェアバージョンを確認します。

具体的な手順は、前記<5 ファームウェアバージョン確認方法>を参照してください。

- 対象 RAID/SAS オプションデバイス全てのファームウェアバージョンが下表「ファームウェアバージョン」欄記載のバージョンであるならば、ファームウェア更新は完了です。
以上で、ファームウェア更新作業は終了です。

ファームウェア名 (*a)	ファームウェアバージョン	対応デバイス	備考
HPE Smart Array E208e-p SR Gen10	6.52	[N8803-054/054L]	(*01)
HPE SR308i-o Gen11		[N8803-055/055L]	(*01)
HPE SR308i-p Gen11		[N8803-056/056L]	(*01)
(*a) iLO Web インターフェース:「ファームウェア & OS ソフトウェア」 → 「ファームウェア」 タブの「ファームウェア名」欄に表示される文字列の一部です。			
(*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。			

- ファームウェアバージョンが上表記載以外である対象 RAID/SAS オプションデバイスがある場合、ファームウェア更新ファイルの選択を誤った可能性があります。
再度、前記<[step.1-01] iLO Web インターフェースへの接続とログイン>から作業してください。

以上で、一連のファームウェア更新作業は終了です。

7. 付録

7.1. リモートコンソール

7.1.1. .NET リモートコンソール (.NET IRC)の使い方

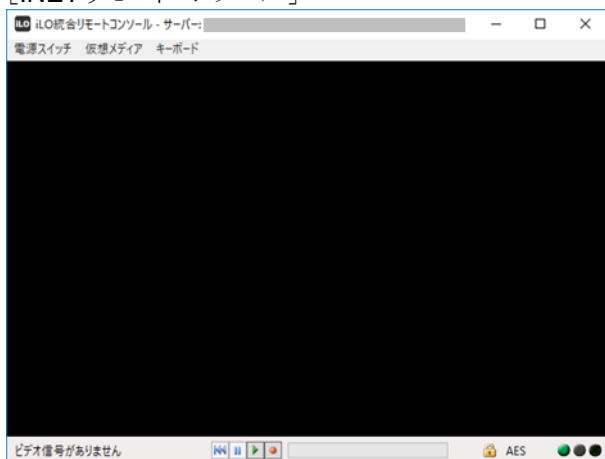
7.1.1.1. コンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「.NET コンソール」ボタン(③)をクリックします。



.NET リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

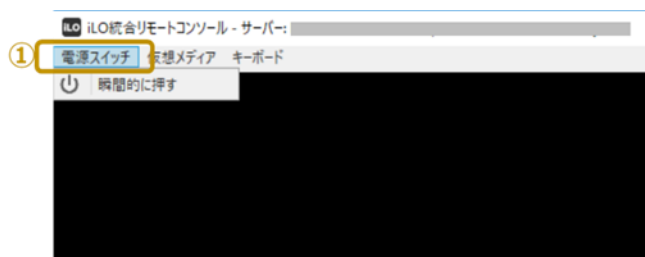
[.NET リモートコンソール]



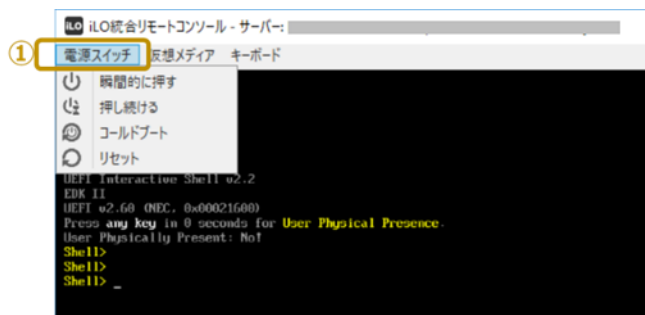
7.1.1.2. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソールの[電源スイッチ]をクリックすると、電源操作メニューが表示されます。表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

[本体装置電源 OFF 状態のとき]



[本体装置電源 ON 状態のとき]



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

本体装置 電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	瞬間的に押す	本体装置の電源を ON します。
ON	瞬間的に押す	本体装置の電源を OFF しようとしています。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	押し続ける	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	コールドブート	本体装置を再起動します。
	リセット	本体装置を再起動します。

7.1.2. HTML5 統合リモートコンソールの使い方

7.1.2.1. コンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「HTML5 統合リモートコンソール」セクション配下の「新規ウィンドウ」ボタン(③)をクリックします。




HTML5 リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

[HTML5 リモートコンソール]



7.1.2.2. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソールの  をクリックし「電源」を選択すると電源操作メニューが表示されます。表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

[本体装置電源 OFF 状態のとき]



[本体装置電源 ON 状態のとき]



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

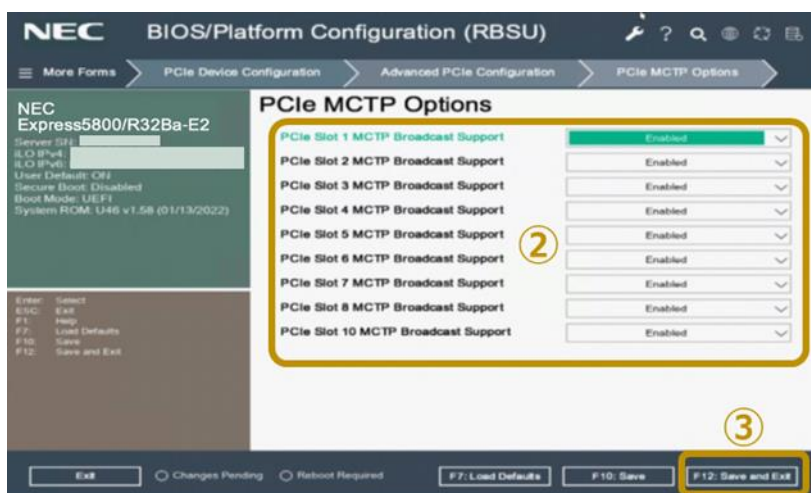
本体装置 電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	瞬間的に押す	本体装置の電源を ON します。
ON	瞬間的に押す	本体装置の電源を OFF しようとしています。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	押し続ける	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	コールドブート	本体装置を再起動します。
	リセット	本体装置を再起動します。

7.2. MCTP 設定変更方法

System Utilities 及び iLO Web インターフェースでの MCTP 設定の変更方法を記載します。

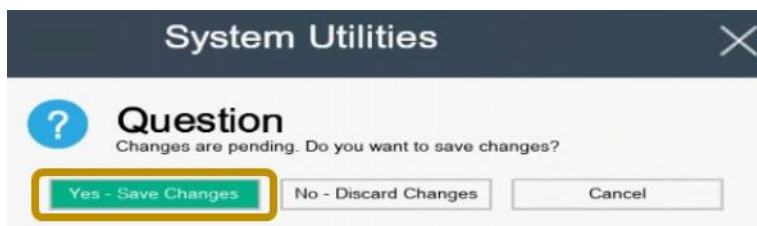
System Utilities の MCTP 設定変更方法

- ① リモートコンソールを起動し、本体装置電源 ON 後、POST 時に<F9>キーを押して System Utilities を起動します。
そして、{「System Configuration」→「BIOS/Platform Configuration (RBSU)」→「PCI Device Configuration」→「Advanced PCIe Configuration」→「PCIe MCTP Options」} を選択します。
- ② 下図 PCIe MCTP Options 画面において、MCTP Broadcast Support を適切に設定します。

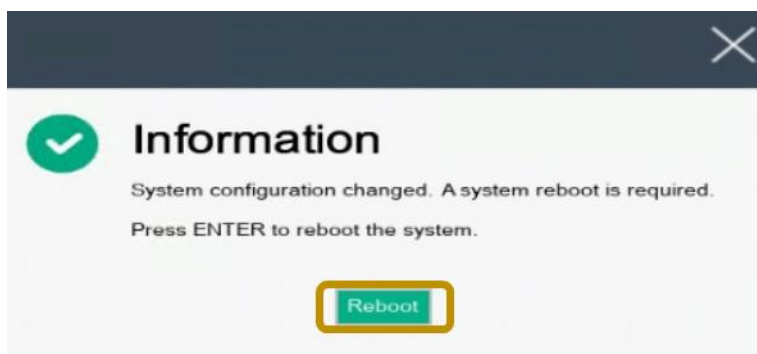


- ③ 設定変更を保存及び反映させるために、上図画面右下の「F12: Save and Exit」をクリックします。

下図ダイアログが pop-up 表示されたならば、「Yes - Save Changes」をクリックします。



下図ダイアログが pop-up 表示されたならば、「Reboot」をクリックします。
本体装置が再起動します。



- ④ 本体装置再起動後、POST 時に<F9>キーを押して **System Utilities** を起動します。
そして、{「Embedded Applications」→「Embedded UEFI Shell」} を選択し、UEFI Shell を起動します。
UEFI Shell 起動したら、「reset -s」と入力して、本体装置を電源 OFF します。

```

UEFI Interactive Shell v2.2
EDK II
UEFI v2.60 (NEC, 0x00020000)
Press any key in 0 seconds for User Physical Presence.
User Physically Present: No!
Shell>
Shell>
Shell>
Shell> reset -s

```

以上で、System Utilities の MCTP 設定変更操作は終了です。


iLO Web インターフェースの MCTP 設定変更方法

- ① 本体装置を電源 OFF します。
- ② iLO Web インターフェースにおいて、メニューフレームにて「システム情報」(A)をクリックし、「デバイスインベントリ」タブ(B)をクリックします。そして、下図 C 箇所の「検出」をクリックします。



- ③ 下図検出設定ページにおいて、MCTP を適切に設定します。



- MCTPを「無効」に設定する場合、
上図 D-1 箇所の「MCTP」欄を  に設定した後、「適用」(D-2)をクリックします。
そうすると、下図「MCTP の設定を確認」フレームが表示されますので、「はい」(D-3)をクリックします。



- MCTPを「有効」に設定する場合、
上図「MCTP 工場出荷時リセット」(E-1)をクリックします。
そうすると、下図「MCTP 工場出荷時リセット」フレームが表示されますので、「はい」(E-2)をクリックします。



- ④ iLO をリセットします。
具体的には、iLO Web インターフェースにおいて、メニューフレームにて「情報」(A)をクリックし、「診断」タブ(B)をクリックします。そして、下図 C 箇所の「リセット」をクリックします。



そうすると、下図「iLO をリセット」フレームが表示されますので、「はい、iLO をリセットします」(E)をクリックします。iLO がリセットされます。



以上で、iLO Web インターフェースの MCTP 設定変更操作は終了です。

7.3. トラブルシューティング

7.3.1. ファームウェア更新が失敗する

現象

ファームウェア更新を行ったところ、iLO Web インターフェースに、下記 C のメッセージが表示される。



回避策

下記回避策 A を行ってみてください。

回避策 A

iLO Web インターフェースでの MCTP 設定について、一旦全スロットを「無効」に設定した上で、再度「有効」に設定し直してください。

MCTP 設定変更方法については、<7.2MCTP 設定変更方法>を参照してください。

NEC Express5800 シリーズ

RAID/SAS オプションデバイス
(N8803-054(L)/055(L)/056(L))

ファームウェア更新ガイド
(ver 6.52)

2025 年 3 月 第 1 版

日 本 電 気 株 式 会 社

東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

落丁、乱丁はお取り替えいたします。

© NEC Corporation 2025

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。